



## 新型コロナウイルス対策一医療機関を守れ!



医療機関での新型コロナウイルスの感染を恐れるあまり、過度の受診抑制に陥ったり、必要な検診が滞ったりすることなどが懸念されています。一方で、病院経営を圧迫し医療崩壊の一因ともなりかねません。

それらの対策として、来院に伴う感染を避けることが出来るオンライン診療の活用は注目に値するものです。県内医療機関の経営

状況とオンライン診療の実施状況について質問しました。

最新の治療方法などの情報を千葉県が一元化して、広く県内医療従事者に行き渡らせるよう要望するとともに、コロナ禍で大幅に落ち込んだ検診の受診啓発を推進するよう要望しました。



### 急務!

来院に伴う感染を避けることが出来るオンライン診療の活用は注目に値するものです。対面による診察に比べると若干の課題はあるものの、県民の健康を守る上でオンライン診療の普及拡大は急務と考えます。



## 統一的な会計基準を用いた「財政の見える化」を!

9月議会の補正予算による増加分を加えると、千葉県の一般会計予算は2.1兆円を超えるものとなりました。新型コロナウイルス関連の追加予算が計上されたことによるものとはいえ、巨額に膨れ上がった予算の内容を県民にしっかりと伝える責任は一層重くなったと言わざるを得ません。

民間企業で用いられている複式簿記を用いた統一的な会計基準に基づいて作成された財務諸表を、近隣都県との比較を通して、県民に対して分かりやすく提供するよう要望しました。

単年度会計を前提とした従来の公会計制度では、将来にわたる費用を織り込むことが出来ないため、過去の施策による思わぬ損失を被ることがあります。将来にわたって安定した財政運営を行うために、発生主義の公会計制度の本格的な導入が求められます。

## コンパクトシティ導入の推進を!

県全体としても人口減少が現実のものとなる中、すでに県内一部地域では人口減少による影響が出ております。医療・行政サービスなど、生活に不可欠な生活インフラを維持・活用するためには、都市機能を集約させたコンパクトシティの導入が必要となっています。そこで、コンパクトシティ導入を進めるための計画である「立地適正化計画」策定の推進状況について質問しました。

一方で、立地適正化計画により集約化される予定の区域内には、台風等の災害時に浸水が想定される場所が含まれているため、区域の見直しなど早急に行うように要望しました。

千葉県からは、国との連携を図りながら、早急に区域の見直しに取り組む旨の答弁がありました。



## 水道管耐震化の更なる推進を!

近年、災害に備える我々の裏をかくかのように、新たな形態の災害が発生しておりますが、それぞれの災害で得た教訓はしっかりと活かしていくなければなりません。

日本全国に大きな衝撃を与えた東日本大震災も忘れるわけにはいきません。湾岸地域を中心に発生した大規模な液状化被害への対応も怠るわけにはいきません。液状化により大きな被害を受けた地域では長期間にわたり上水道が利用できなかったことが県民生活に大きな支障をもたらしました。



液状化が懸念される湾岸埋め立て地域だけでなく、幅広い地域で、地震に強い、液状化に強い管路の耐震化が望まれます。

そこで、これまでの水道管の耐震化の進捗について質問しました。

令和元年度末における県営水道の管路延長は9,179 kmに対して、耐震化率は23.6%。液状化が懸念される湾岸埋立エリアの管路延長は約696 kmに対して、耐震化率は47.7%となります。